

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 開会宣告
 - ・ 議題の確認
-

1 調査事件

(1) 旅客ターミナルの整備について

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、11月29日付で港湾空港部から資料が配付されている。その内容について説明を受けるため、理事者に出席を求めたいと思うが、よろしいか。（異議なし）
- ・ 理事者の入室を求める。

（港湾空港部 入室）

○委員長（小林 芳幸）

- ・ それでは、説明をお願いします。

○港湾空港部長（岡村 信夫）

- ・ 資料説明：旅客ターミナルの整備について（平成30年11月29日付 港湾空港部調製）

○委員長（小林 芳幸）

- ・ お聞きのとおりだが、ただいまの説明も含め、本件について、各委員から何か発言はあるか。

○工藤 恵美委員

- ・ 実際に現地に行って、一番最初にいただいた計画図と全く規模が違うことがよくわかった。自分がイメージしていた規模との違いがわかった。雨が降ったらどうするのか、埠頭を歩かせるのだろうかなどいろいろな心配はあったが、そのような心配が全くないということもわかったので、早く完成するといいなと思っている。摩周丸の横を通るということで、摩周丸もまた活用されるようになっていいなと思って見ていたが、ここは船をおりて橋を渡り、摩周丸の駐車場に行く道路があったと思うが、この道路は閉鎖するのか。

○港湾課長（藤森 悟志）

- ・ ここが摩周丸の入り口になるが、このような形で通行は可能になり、車においても現在と同様に駐車場を確保しているもので、摩周丸にとって支障はない形である。（図－1：旅客ターミナル配置および乗客・バス・タクシー動線イメージ図を使用）

○工藤 恵美委員

- ・ 車が通る道路は、お客さんが歩く道路ではないのか。

○港湾課長（藤森 悟志）

- ・ このイメージ図の中で、車の動線と歩行者動線を分けて記載しており、わかりにくいかもしれないが、クロスしないような形で考えている。

○工藤 恵美委員

- ・ あとの心配は何もないので、おくれることなく、予算をいっぱいいただいて、1日でも早い完成を待ち望んでいるので、一所懸命努力していただきたい。

○阿部 善一委員

- ・ 完成目標が2022年度となっているが、これは国とそのような方向で確認されているものなのか。あるいは、函館市の意向なのか、その辺を明確にお答えいただきたい。

○港湾課長（藤森 悟志）

- ・ 現在、国のほうで岸壁整備、泊地しゅんせつ工事をまだ着手していないが進めており、その完成目標として平成30年代前半ということで、インターネット上でも公表している状況にある。そういう状況にあるので、本格供用開始になると非常に多くの旅客が訪れることになるので、それに合わせて旅客ターミナルについても2022年度ということで整備したいと考え、国のほうにもその旨話をしている。

○阿部 善一委員

- ・ そうすると、国とは2022年の使用開始ということについては確認をされてなく、函館市の意向として2022年度ということなのか。JRともう大体話し合いもしているのだから、あとは予算をどうつけるかという問題だけであるが、これは長くなればなるほど大した効果はなくなってくる話で、そういう意味では早くやらなければならないことになってしまう。そうすると、大体国とはこの2022年度ということには、大筋合意ということになっているのか。それとも、開発局から「そこまで言うな。予算つかないから。自信ないから。」と言われているのか。その辺どうなのか。これはやはりマスコミにも2022年度の目標と大きく報道されているし、新聞を見た方は、当然それまでにはできるんだなと、使用開始になるんだなという印象を受ける。それが、平成30年代前半となってくると、話が違うじゃないかということになってくるわけで、困惑する。そうすると、誰が言うことが本当なのかということになって、非常に混乱を来す恐れがあると思っている。本当に2022年度の使用開始に間違いないということなのか。

○港湾空港部長（岡村 信夫）

- ・ 国のほうでも、確かに岸壁の整備目標が平成30年代前半という表現になっている。それも、やはり予算のつき具合もあると思うし、国としては、やはり国のプロジェクトとして2020年度の訪日客500万人を掲げているので、1年でも早く整備したいという思いはあるとも聞いているが、やはり毎年つく予算の状況次第で、なかなか確定的なことを言えないのが国の状況かと思っている。とはいえ、国の今のところの目標が出ているので、その時期に間に合うように旅客ターミナルは整備していきたいという市の思いであることは、間違いはない。

○阿部 善一委員

- ・ JRの土地の買収費あるいはターミナル建設費を含めて約14億円ということだが、買収費あるいはターミナル建設費、これはたしか国の補助はつかない。これは市の独自財源になる。そうすると、それはそれとして先行的なことができる。そこはどうなのか。あくまでも国の予算に合わせてこれを遂行していくのか。あるいは、できるものは早目にやっていくという構えなのか。函館市の方針として、そのスタンスはどうなのか。

○港湾空港部長（岡村 信夫）

- ・ 国が整備を行っている客船が着く棧橋、一方で我々が整備したいと考えている客船ターミナル、我

々としては、客船ターミナルの整備は、国が目標を平成30年代前半と掲げているが、そこに間に合うように、例えば国が予算がつきづらい状態であっても、我々は客船ターミナルの整備はその平成30年代前半という、今、国が掲げている目標年次に向けて整備を終えるように、我々なりに予算をお願いし、整備を進めていきたいという考えである。

○阿部 善一委員

- ・ ちょっと曖昧な部分がある。わかりやすく言うと、国は国としての予算上の問題も当然あるから、それは変わる場合もあるし、不確定な要素を持っている。しかし、JR北海道の土地の買収やターミナルの工事は、それとは関係ない話である。それはJR北海道と函館市の話し合いだけで、独自財源で国の補助がいらないのであれば、当然先行取得、先行整備ができる。理屈的には全然問題ない。だから、それはそれとして、函館市としてやっていくのかということであるので、国の意向がどうという話ではなくて、どっちなのか。そこをもう少しわかりやすく説明してほしい。

○港湾空港部長（岡村 信夫）

- ・ それははっきり市の考えとして、2022年度までに旅客ターミナルを整備すると。もちろんJR北海道との土地購入についても、それはそれで我々の整備目標スケジュールにのっとり、例えば来年からでも買収に向けた予算のお願いをしていきたいと考えている。

○阿部 善一委員

- ・ さっき言ったように、早目早目にやらなければ、後に何が起きるかわからない。国でもしゅんせつの土砂の堆積場所はもう決まったら、関係者の同意も得たと。あとはもう予算の問題だけである。
- ・ この資料には目的外使用とあるが、何を想定してこの目的外使用という項目をわざわざ記載したのか。

○港湾空港部管理課長（中村 謙三）

- ・ これは、クルーズ船の利用がないときに、何かのイベント等で使うことを想定して、そういうときには、クルーズ船の利用に影響のない範囲内で貸し出しということも想定しているということで記載している。

○阿部 善一委員

- ・ 確かに約半年間クルーズ船が入って来ないわけだから、それはそのまましておくのはもったいない話で、当然そういう考えも起きる。それは岸壁も含む話なのか。ターミナルだけなのか。岸壁はクルーズ専用岸壁なので、ターミナルはわかったが、岸壁の目的外使用というのも何か考えているのか。ここは耐震化もされていないし、そういう意味では、日常的なものの使用しかないが、その辺はどのように考えているのか。

○港湾空港部長（岡村 信夫）

- ・ 基本的にあそこの岸壁は、貨物船が着き、重たい荷物をおろして運搬するというような目的でつくっている岸壁ではない。強度上もそういった構造でもないし、目的でもないの、貨物船が着くという想定は我々もしていない。ここはあくまでも客船埠頭、クルーズ船が着く埠頭と考えているが、ただ、客船も1年を通して毎日のように着いているわけではないので、客船に影響がない範囲内で、例えば、学生などが練習船で年間何十隻か函館に入港しており、そういった練習船や調査船を特に一般公開することがある。そのようなときには、これまで港町ふ頭でやっていたのが、駅前の交通機関の

便利なところで一般公開もできるということになるので、客船だけに限らず、そういった練習生・調査船の一般公開などでも係留できるようにしたいと考えている。

○阿部 善一委員

- ・ この前、見学したときに給水管設備はあったが、陸電設備はあったか。私は見なかったが、陸電の設備は整備していたか。

○港湾課長（藤森 悟志）

- ・ 若松ふ頭岸壁については、現在、陸電設備は設置する考えはない。それで今は船舶給水のみとなっている。また、あの後照明灯を設置させていただいた。

○阿部 善一委員

- ・ そうすると使う船も限られてくる。おのずとそこで制約されてくる。
- ・ 摩周丸の横に駐車場を19台確保しているが、ここは、客船が入っていないときに、摩周丸を見学に来た方には開放しないのか。私は、土地の有効活用から考えると、当然摩周丸に見学に来た方もこの駐車場をただで使えるようにするべきだと思うが、どのように考えているか。

○港湾課長（藤森 悟志）

- ・ 先ほど目的外使用ということで、クルーズ船以外の利用の話をしたが、使っていないときにはそのような利用も考えている。使用料の免除などの関係については、工事着手前までには整理して、またお知らせしたいと考えている。

○阿部 善一委員

- ・ ぜひ、土地の有効利用という観点から考えていただきたい。例えば、観光シーズンなどもそうだが、遠くから来た観光客が、非常に駐車場確保に苦慮し、駐車場を探して何時間もずっと行列をつくったり、あるいはどこに行ってもいかわからなかったり、そういう光景を非常に目にするが、やはりそういうものも、ほかの部局と協議しながら検討して、有効活用すべきだと思う。
- ・ 来年は50隻のクルーズ船が来るというが、若松ふ頭ができた暁には港町ふ頭と両方が使える。ただ、函館市の受け入れ体制がそこまであるかといえば、実はない。なぜかという、エージェントの問題がある。エージェントは大して利益のある仕事じゃないと言われている。忙しいだけで、非常に利益のないものだ。船会社と行政が直接やるわけではないから、必ずエージェントが中に入っているりと手続きをしたりする。函館市の今のエージェント体制からいくと、船の大きさにもよるが、どれくらいが限度なのか。当然、それもクリアしなければならない問題である。今度は港町ふ頭と両方使えるわけだから。港町ふ頭は一切使わないという話ではないのだから。日本一の釣り堀を堅持するかどうかという問題はあるが。そこはどのように考えているのか。

○港湾空港部長（岡村 信夫）

- ・ これまで函館港には、数は多くはないが2隻同時に旅客船が入ったこともあった。年間の隻数50隻となると状況は変わると思うが、そのときには特に支障なく船舶代理店では対応していただいたと考えている。ただ、それが50隻となると、今までの倍近くになって、2隻同時の日が年に1回だけでなく、何回も出てくることもあるかと思う。そうなったときには、市側でもフォローできる場所は満遍なくしていきたいと思うし、現在代理店をやっている会社のほうには、来年50隻近いという状況は伝えており、対応に無理があるかどうかというような打診もさせていただいているが、今のとこ

ろ、おおむね50隻という数字は、正直大変な部分はあるが、対応していただけると聞いている。

○阿部 善一委員

- ・ 船舶代理店は、需要があれば当然やるし、使命感を持ってやっているんだろうと思うが、その陰には相当な苦勞もある。年間60隻とか70隻が必ず来れるということになれば、また別の考え方もあって、もう少し代理店をふやさなければだめだとかという考えもあるだろうし、それから、国際貿易センターにもう少し業務の一部を担ってもらおうとか、いろいろな考え方が出てくると思う。この埠頭ができて、たくさん船が入ってきて、たくさん金を落とすんだと、そういうバラ色的な考えで私は決して思っていないし、皆さんも思っていない。ただ、受け入れ体制そのものには、実は目に見えない大変な部分があるんだということを、皆さん百も承知な話であって、そのために体制強化をどうしていくかと。受け入れ体制がなければ船はふえていかない。だから、そういうことも含めて、いろいろと港湾部長の手腕を期待してこれで質問を終わる。

○工藤 篤委員

- ・ 14億円ということで、ほとんど自己資金ということになるが、費用対効果を考えたときに、例えば何千人が来たら、どれぐらい地域にお金が落ちるとか。その辺は調べているのか。

○港湾課長（藤森 悟志）

- ・ 旅客船埠頭の関係では、一般的な形で一人当たり何万円という話はさせていただいていたが、今回、旅客ターミナルができることで、手続の関係が短くなり、函館にいる滞在時間が、恐らく1時間、2時間はふえると考えている。そのような中で、例えば10万人の乗員・乗客が函館を訪れたとして、全員というのはなかなか難しいかもしれないが、滞在時間がふえることで観光やショッピングの時間もふえ、一人が1万円を使おうと思っていたのが1万1,000円を使い1,000円ふえたとして、10万人だとしたら1億円くらいの効果があるということになるので、そのような効果も、なかなか難しいところはあるが、期待しているところである。

○工藤 篤委員

- ・ 今までから見て1,000円ということだが、今までどれくらいということ考えていたのか。

○港湾課長（藤森 悟志）

- ・ 函館市では、具体的に乗客一人当たり幾らというのはやった事例はないが、国のほうでは、例えば一人当たり3万円とか4万円という調査結果もある。ただ、今それがそのとおりになるのかというのがあるので、その辺も今後、実際の消費額がどのようになっているのか、実態調査も含めてアンケートで聞き取りを行っていかなければだめだと思っている。そういう形で、実施したいと思っている。

○工藤 篤委員

- ・ たしか記憶によると、長崎では一人当たり3万円とか3万2,000円という数字を言っていたが、その答弁をした人自身が、余り自信のない形で答弁されていたような気がする。きちんと根拠のある数字を出して、14億円という額を投資しても、将来的な展望があるということの説得材料に必要なと思うので、調査等は大変だと思うが、ぜひ前向きに取り組んでいただきたいということを申し上げて終わる。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 他に、発言はないか。（なし）

- ・ それでは、発言を終結する。

(港湾空港部 退室)

○委員長（小林 芳幸）

- ・ その他、本件について、各委員から何か発言あるか。(なし)
 - ・ 議題終結宣告
-

2 その他

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 次に、2のその他だが、各委員から何か発言あるか。(なし)
- ・ 散会宣告

午前12時00分散会